

食品26社の実就職率ランキング

順位	設置	大学名	所在地	実就職率 (%)	卒業生数	食品26社 就職者数	大学院 進学者数
1	※	東京農工大*	東京	2.0	1,694	20	702
2	※	東京海洋大*	東京	2.0	743	9	289
3	◎	東京農業大	東京	1.6	2,794	41	213
4	※	一橋大	東京	1.6	970	14	74
5	※	京都大*	京都	1.5	6,322	64	2,160

【表の見方】
データは、各大学発表による2017年の就職状況。
実就職率(%)は、就職者数÷(卒業(修了)者数-大学院進学者数)×100で算出。
同率で順位が異なるのは、小数点2桁以下の差による。大学により、一部の学部・研究科を含まない場合がある。
※印は国立、◎印は私立、無印は公立。*印は大学院修了者を含むことを表す。
調査・大学通信



現代社会が直面する大きな課題のひとつに「食」の問題がある。専門的に食品について学べる日本でも数少ない教育拠点である東京農業大学では、「食」を支えるための実にさまざまな研究が進められている。その成果は、2016年度の食品分野の上場企業への就職率全国3位という数字にも表れている。このランキングは、国公立大学を含む全国の大学を対象としたもので、私立大学においては全国1位という揺るぎない地位を確立している。

食品業界が注目する
東京農業大学
食品業界に就職する学生を、全学科からまんべんなく輩出している東京農業大学のなかでも、その強さが際立っているのが応用生物科学部だ。今年の学部系統別、実就職率では農学系で全国私大中3位という非常に高い実績を挙げている。(同6位には同大生物産業学部もランクイン)
醸造科学科は、日本が世界をリードする発酵研究の拠点。微生物を中心に、「食」を支える醸造技術と先端生命科学を学び、新たな技術開発をめざす。研究対象は、酒、味噌、醤油といった発酵食品だけでなく、環境問題やバイオマスエネルギー開発まで多岐にわたる。
栄養科学科は、来る超高齢社会に対応できる管理栄養士のエキスパートを育成する学科。管理栄養士養成施設として農学系の総合大学では初めて創設された。「食」「農」「医」に関する幅広い専門知識をバランスよく身につけながら、国家資格取得

幅広い「食」の研究が就職力を支える
「人物を畑に還す」を使命とし、実践力を養う「実学主義」を貫いてきた東京農業大学。そ

の教育の根底には、温暖化、資源枯渇、食料危機といった地球規模のさまざまな課題に因應される人材を、世の中に「還していく」という力強いメッセージが込められている。

現代社会が直面する大きな課題のひとつに「食」の問題がある。専門的に食品について学べる日本でも数少ない教育拠点である東京農業大学では、「食」を支えるための実にさまざまな研究が進められている。その成果は、2016年度の食品分野の上場企業への就職率全国3位という数字にも表れている。このランキングは、国公立大学を含む全国の大学を対象としたもので、私立大学においては全国1位という揺るぎない地位を確立している。

食品業界が注目する
東京農業大学
食品業界に就職する学生を、全学科からまんべんなく輩出している東京農業大学のなかでも、その強さが際立っているのが応用生物科学部だ。今年の学部系統別、実就職率では農学系で全国私大中3位という非常に高い実績を挙げている。(同6位には同大生物産業学部もランクイン)
醸造科学科は、日本が世界をリードする発酵研究の拠点。微生物を中心に、「食」を支える醸造技術と先端生命科学を学び、新たな技術開発をめざす。研究対象は、酒、味噌、醤油といった発酵食品だけでなく、環境問題やバイオマスエネルギー開発まで多岐にわたる。
栄養科学科は、来る超高齢社会に対応できる管理栄養士のエキスパートを育成する学科。管理栄養士養成施設として農学系の総合大学では初めて創設された。「食」「農」「医」に関する幅広い専門知識をバランスよく身につけながら、国家資格取得

求人倍率5・3倍は
全国平均の約3倍*
毎年、朝日新聞社が発表する「就職人気企業ランキング」で上位100位にランクされる人気企業への就職も好調だ。2016年度の卒業生も、カゴメ、明治グループ、森永乳業、山崎製パン、ロッテ、キユーピー、雪印メグミルク、敷島製パンなどへの就職を決めている。特に、乳業と製パン業における強さは別格で、採用者の1割近くが東京農業大学の卒業生だと言われることも。また、JAG

“生きる”を支える 東京農業大学の就職力

東京農業大学

東京農業大学の「就職力」に注目が集まっている。その根幹にある「農学」は、農業を支えるだけでなく、生命、食料、環境、健康、エネルギー、地域創成など、現代社会が抱えるさまざまな課題に挑む学問。つまり、今こそ「農学」の知識が幅広い業界で求められている。なかでも際立つのは、食品業界、公務員の就職実績。官公庁にも数多くの卒業生を送り出している。その強さを支える大学の取り組みに迫った。



構成 河村卓朗(大学通信)
文 丸茂健一(ミニマル)

倒的な実績を示している。「農大ネットワーク」が日本の酒造りを支えていると言っても過言ではない。

一方、造園科学科も日本で2大学しかない、造園を専門的に学べるユニークな学科。都市計画には欠かせない人と自然が共生できる空間づくりを総合的に学ぶことができる。カリキュラム

は、空間づくりの素材となる植物の知識、設計に必要な工学技術、景観設計とその施工法やマネジメントまでをトータルに学び、街づくりのダイナミズムを感じられるように設計。さらに、野外での造園体験や3Dレーザースキャナを使った最新の測量実習などを豊富に取り入れ、実践力を鍛えていく。造園科学科

の卒業生は、都市計画や建設の幅広い分野で活躍している。

化粧品・医薬品開発にもアプローチできる

また、オホーツクキャンパスの生物産業学部には、日本で唯一、食品、香料、化粧品などの基礎研究から開発・加工といっ

た応用研究までをカバーする食粧化学科があることにも注目したい。自然豊かなキャンパスで徹底的に実験・実習に取り組んだ成果は、人気の食品業界、化粧品業界の研究・開発現場で必ず役立つことだろう。

さらに、2017年4月に開設された生命科学部では、「理学」「工学」「医学」の分野にア

「農学」を通じて、生命、食料、環境、健康、エネルギー、地域創生などの現代社会の課題に挑み、人々の生活に密着したさまざまな領域で活躍できる人材を育成してきた東京農業大学。その取り組みは、「生きているを支える」という大学のキャッチフレーズにもシンプルに表されている。

「実学主義」を徹底した教育は、食品業界や公務員を筆頭に、幅広い分野で高く評価されてきた。そして、研究の可能性は「食」「農」から「住」「医」の領域にまで広がりを見せている。多岐にわたる分野で卒業生が活躍する東京農業大学の今後からますます目が離せない。



上 醸造科学科 実習風景
下 造園科学科 授業風景

エミュオイルを使用した
スキンケア商品



アプローチできる可能性も広がっている。化学や生物学をベースに、化粧品や医薬品開発の基礎研究をしたいと考えている人にも、東京農業大学という選択肢をぜひ知ってもらいたい。

**「農学」は身近にある
問題を解決できる学問**

公務員になって学びを
地域に還す学生も多い

生産環境工学科では
毎年3割が公務員に

東京農業大学で学んだ「農」の知識を地域創成に活かしている学生も多い。その成果は、農林水産省、国土交通省などの国家公務員、全国の地方公務員の就職実績に表れている。

その傾向が特に顕著なのが、地域環境科学部の生産環境工学

ループの各機関に就職する学生も多い。

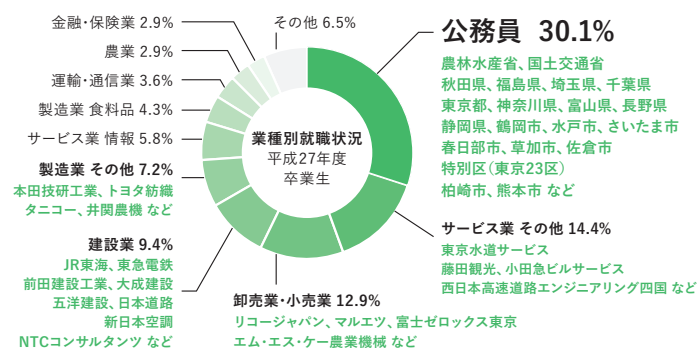
こうした実績を支えているのは、東京農業大学への求人数の多さだ。2016年度では、就職希望者2307人に対して求人数はなんと1万2223件。求人倍率は実に5.3倍ということになる。これは全国平均の約3倍にあたる数字で、企業からの注目度の高さがうかがえる。

＊(株)リクルートホールディングスリクルートワークス研究所「大卒求人倍率調査(2016卒)」より

公務員に強い生産環境工学科！

エコ・テクノロジーは社会的要請の高い技術ですが、これに精通した人材は希少です。生産環境工学科では、国家、都道府県、市区の技術職の公務員や、建設、機械(設計・販売・整備)、製造などの企業に採用される学生が多く、なかでも公務員は年平均30%の採用実績を誇っています。

主な就職先



取得できる資格

技術士補、測量士補、高等学校教諭一種免許状(理科・農業)、中学校教諭一種免許状(理科・技術)、学芸員、司書

スペシャリストを育てる
東京農業大学ならではの学び

科。毎年約3割の卒業生が公務員としての進路を決めている。

この学科では、農業土木技術、農業機械技術を応用して、農業生産現場の技術開発に役立てる研究をメインに、水資源の枯渇化、水質悪化といった地球規模の環境問題を解決する最先端のエコ・テクノロジーの開発にも挑んでいる。そのため、研究のフィールドはまさにグローバル。北海道から沖縄に至る国内のフィールドに加え、アジア・ア

リカなどでの研究に取り組む学生もいるという。

生産環境工学科がめざすのは、自然と人間が共生できる循環型社会の創造。現場で実践力を鍛えた公務員志望者たちのほとんどは、地方公務員としてUターン就職をし、地元貢献する道を選んでいく。職種は、都市計画や造園などの技術職が大半で、林業を担ったり、教員として地域の次世代育成に注力したりする卒業生も多い。

全国的にも珍しい
醸造科学科と造園科学科

徹底した「実学主義」によって、実社会で即戦力になれるスペシャリストを養成する学科が多いことも東京農業大学の就職力の秘密だと言える。その代表格が応用生物科学部の醸造科学科と、地域環境科学部の造園科学科だ。

すでに紹介した醸造科学科は

全国に2大学しかないという貴重な教育・研究拠点で、全国の酒蔵の後継者が数多く学んでいることで知られている。実際は、定員140名のうち10名程度で、ほとんどは発酵食品や微生物に興味がある一般の学生だが、それでもかなりの比率であると言っている。当然ながら酒造業界で働いている卒業生も多く、中でも、全国の日本酒蔵元の約7割が農大関係者という圧